

# 令和6年度第5回三郷区地域協議会 次 第

日時：令和6年10月29日（火）午後6時30分～  
会場：三郷地区公民館 2階 集会室

1 開会

2 自主的な審議

(1) 自主的審議事項について

3 事務連絡

4 閉会

## 【今後の日程】

第6回地域協議会：11月26日（火）午後6時30分～、三郷地区公民館

第7回地域協議会： 月 日（ ）午後 時 分～、三郷地区公民館

## 三郷区地域の課題や取り組みたいこと

◎第4回三郷区地域協議会（令和6年9月24日開催）で出た意見

### 地域の課題や関心があること

- ・これからの農業を考えると、跡継ぎがないのが心配である。
- ・公民館の整備を希望する。…前期の地域協議会委員が意見書を出している。
- ・免許を返納した場合の交通手段が心配。
- ・三郷小学校廃校後の活用…他の地区の人も集まれる場所に。児童クラブの存続できないか。
- ・三郷区から学校がなくなると、若い世代の転出が進んでしまうのではないか。
- ・団体の横のつながり強化が必要…同じ人が関わっていたりする。

### 地域または地域協議会で取り組みたいことなど

- ・地域のことをもっと知りたい。（世帯数、高齢化率、団体の状況など）
- ・若い人も高齢の人もみんなが良いといえるような魅力ある三郷を考える。
- ・地域の現状を知るために、住民アンケートをとってみたいらどうか。  
…地域の課題を明確にしたり、住民の困りごとの解決ができればよい。
- ・三郷区で冬のイベントができないか。…みんなで楽しめるもの。
- ・三郷夏祭りをより充実したものにしたい。
- ・花をいかした地域活性化や春駒の伝承について、もっとアピールしたらよいのでは。

# 第1章 沿革

## 1 行政

### (1) 三郷村の誕生と解村

1889年（明治22年）4月1日に町村制が実施され全国的に町村の大分合が行われ、太古以来の村々が消滅して「大字」と呼ばれることになりました。

昔の<sup>ものふごう</sup>武士郷から下四ツ屋村と西松野木村が、<sup>たかつごう</sup>高津郷から本長者原村と天野原新田村が、<sup>しんでんごう</sup>新田郷からは新長者原村、本長者原新田、今池村、藪野村、辰尾新田が合併し<sup>さんごうむら</sup>三郷村（大字数は9）が誕生しました。このように三つ郷のそれぞれ一部が集まって設立されたことから「三郷村」と名付けました。

また1901年（明治34年）11月1日高士村の下稲塚と東稲塚新田の二つの大字が分村して、三郷村に合併（大字数が11）しました。

その後、1953年（昭和28年）7月に町村合併促進法が成立し、上越の中心都市である高田市は近村との合併を強く希望していたことから、三郷村は周囲の近村と歩調をあわせ1955年（昭和30年）2月1日高田市に合併しました。

このような経緯で三郷村67年間の歴史に幕を閉じることになりました。三郷村の記憶と記録を末永くとどめるため、1955年10月「三郷村解村碑」（天野原新田地内の旧役場敷地、現在の三郷地区公民館の敷地）が建立され、また1961年（昭和36年）に「三郷村誌」が発行されています。

### ★既に発行されている三郷村誌と解村碑



大正15年発行



昭和15年発行



昭和36年発行



三郷村解村碑

### (2) 上越市の発足

1971年（昭和46年）4月29日高田市と直江津市が対等合併し、人口12万人の上越市が発足しました。

### (3) 長者町の発足

1975年（昭和50年）12月1日新長者原と本長者原新田が合併して長者町が発足しました。

(4) 桜町の発足

1993年（平成5年）4月1日新しい町内会の桜町が誕生しました。この結果、三郷地区の町内会数は現行の11となりました。

(5) 新しい上越市の誕生

2005年（平成17年）1月1日近隣13町村と合併し、人口20万8千人の新しい上越市が誕生しました。

(6) 上越市で「地域自治区」を設置

2005年（平成17年）の市町村合併を機に、それぞれの地域の特性をいかしたまちづくりを実現するため、旧町村の範囲を単位とした地域自治区が設置されました。

その後、2009年（平成21年）に合併前の上越市の地域にも地域自治区が設置されました。

その結果、三郷地区を「三郷区」とし、三郷地区の地域課題等を審議する機関として、市長から選任された三郷区の住民12人による「三郷区地域協議会」が置かれました。

なお令和3年8月現在、地域課題などを審議する自主的審議事項のテーマを「三郷区の郷土芸能 無形文化財『春駒』の伝承について」と「三郷地区公民館の整備について」に決めて協議を進めています。

(7) 三郷まちづくり振興会が発足

三郷地区町内会長協議会と三郷区地域協議会が中心となって協議を進め、2018年（平成30年）4月1日三郷まちづくり振興会が発足しました。

地域の特性を活かしたまちづくりや地域課題の解決に取り組むため、市から受託している地域支え合い事業など地域福祉推進のための事業を実施しています。

## 2 幹線道路の整備

(1) 国道18号（上新バイパス）

従来の国道（現県道上越・脇野田・新井線等）は幅員が狭く、しかも沿線市街地は家屋が密集しているため除雪作業が困難となり、しばしば交通止めという事態が発生していました。

これらを解消するため、上越市中郷区市屋から上越市大字下源入までの区間24.6kmに上新バイパスが建設されています。計画調査は1971年（昭和46年）から始まり現在も4車線化の工事が進められています。当三郷地区の今池地内を通過し、県道青柳高田線と交わる今池交差点が設置されています。

①今池遺跡の発掘調査

工事着工前に新潟県教育委員会によるバイパス予定線法線内の遺跡分布調査が1979年（昭和54年）10月に行われ、平安期頃の土師器・須恵器片が採取されたことから、発掘調査が1980年（昭和55年）から1983年（昭和58年）まで実施され、奈良時代から平安代初頭にかけての大規模な掘立柱建物跡が多数検出されました。

## ② 2車線の供用

バイパスの工事は1978年（昭和53年）から着手され、今池から寺町の間4.3kmが1982年（昭和57年）11月に三田から今池までの7.0kmが1983年（昭和58年）10月に2車線で供用されました。

## ③ 4車線の供用

鴨島から今池の間の4車線供用は2009年（平成21年）12月から、また今池から岡原間は2013年（平成25年）11月に供用されました。現在も岡原から先の区間で4車線化の工事が進められています。

### ★国道18号 今池交差点の写真



(直江津方向)



(新井方向)

## (2) 県道青柳高田線

### ① 県道青柳高田線改修期成同盟会の活動

地域住民の通勤や通学の主要路線となっている県道青柳高田線の道路改修を促進するため、1980年（昭和55年）7月5日清里区（当時は中頸城郡清里村）と三郷地区の沿線の関係町内会で同盟会を組織し活動を続けています。

発足以来40年以上、所管する県上越地域振興局地域整備部の担当者出席のもと現地説明会開催や要望書を提出するなど地道な活動を進めています。

### ② 長者原交差点から下稲塚交差点間の歩道整備

三郷小学校の通学路となっているこの区間は、通行車両が多くまた降積雪で道路幅員が狭くなり危険な状態となっていました。このことから、期成同盟会などで長年にわたりは歩道の設置を要望してきました。

この結果、2000年（平成12年）から長者原交差点から東に向かって道路南側に自歩道（自転車や歩行者を自動車から分離することによる安全確保のために設けられた道路）として歩道設置工事が進められ、現在稲塚集落センター付近まで完了し、下稲塚地内で設置工事が進められています。なお下稲塚交差点までの工事完了計画年度は令和6年度となっています。

★県道青柳高田線 道路状況の写真（撮影令和3年8月）



（稲塚集落センター手前）



（下稲塚地内 六合公園前工事中）

③今池橋の掛け替え

一級河川関川の改修工事により川幅が広がったことや橋の経年劣化による老朽化により今池橋の架け替え工事が実施され、1999年（平成11年）12月から供用開始されました。

（3）県道板倉直江津線

長年にわたる県への要望書提出など地道な活動の結果、天野原新田・長者町地内の県道板倉直江津線は両側に歩道が設置された道路として整備され、1992年（平成4年）改修工事が完了しました。

### 3 生活インフラの整備

（1）上水道

1967年（昭和42年）5月三郷、高士、諏訪地区を区域とする東部広域簡易水道事業として水道水の供用が開始されました。水源は津有地区本道地内で地下水を汲み上げる井戸水でした。

その後、1974年（昭和49年）頃水源が城山浄水場経由となりました。三郷地区の加入率は現在100%となっています。

（2）都市ガス

1995年（平成7年）から長者町で供用され、順次工事が進み、2002年（平成14年）2月に工事が完了しました。三郷地区の加入率は現在69.9%となっています。

（3）下水道（農村集落排水事業）

農村地域に適した汚水処理を整備する市の事業として、1995年（平成7年）から1997年（平成9年）まで、三郷地区を6町内と4町内の二つの工区に分けて農村集落排水事業の工事が実施され、1997年（平成9年）3月25日から終末処理場への供

用が開始されました。なお桜町町内会は町内に農家が無いことからこの事業には参画せず、排水対策は各戸が合併浄化槽設置などで対応しています。

#### (4) 公益社団法人 上越市有線放送電話協会 (JHK)

高田市と9農協(当時の三郷農協を含む)が主体となり、電々公社との接続を前提とした全自動式の有線放送電話を設置することになり、1967年(昭和42年)1月1日から業務を開始しました。電話は農集(農業集団)電話で1回線の中に8個強(最大10個可能)が入っているものでした。1979年(昭和54年)6月30日電々公社との接続を廃止し、地域のミニ情報媒体へと変化してきました。

その後、1989年(平成元年)7月から1991年(平成3年)12月までの間デジタル交換機導入による改修を行い、電話番号ごとの個別回線となりました。

また、1998年(平成10年)3月から有線回路を利用したインターネット接続サービスも開始しています。なお、インターネット接続サービスは2022年(令和4年)9月をもって終了となります。加入者宅から地区別・団体別放送ができるページング放送や消防局からの自動緊急放送、市の防災行政無線・Jアラートとの接続なども行っています。全地区の加入者数は、2020年度(令和2年度)末現在で4,534戸となっています。

#### ★事業開始当時のダイヤル式受話器



(表面：黒電話)



(裏面：スピーカーがある)

#### (5) 上越ケーブルビジョン株式会社 (JCV)

光サービスや光テレビ、光ネットなどのサービスを提供している上越ケーブルテレビジョン株式会社は、エリア拡大にともない三郷地区では2018年(平成30年)6月に今池町内会のエリアが開局し、翌2019年(平成31年)4月1日には桜町と今池以外の9町内会のエリアが開局しました。なお桜町はこれ以前から開局していました。

## 4 ほ場整備

### (1) 昭和40年代のほ場区画整理事業

昭和40年代のほ場区画整備事業は、大型機械化作業に適する大区画で、用排水のよいほ場が要求されることから、原則として30㌥区画（30㌥×100㌥）のほ場を標準化として整備されました。

#### ①中江用水関係

1964年（昭和39年）高田市は三郷地区を農業構造改善事業の地区に指定したことから、三郷地区では推進委員会を立上げ組合員に農業経営の新しいあり方を説明するとともに工事開始を1965年度（昭和40年度）と決めました。当該地域の面積は約149町歩余りで、1966年度（昭和41年度）に事業が完了しました。また対象外となった残りの約100町歩余り（新長区と今池区）は非補助事業として、1966年度（昭和41年度）に着工され、それぞれ2年間の工事期間を経て1967年度（昭和42年度）に完了しました。 \*新長区とは、現長者町耕地の一部のこと

#### ②上江用水関係

上江用水系の下四ツ屋、下稲塚、東稲塚新田地域の事業は、上江土地改良区の基盤整備事業として、清里地区の工区448町歩として1970年（昭和45年）から1981年（昭和56年）まで県営ほ場整備事業として実施されました。

### (2) 大規模ほ場区画整備事業

昭和40年代のほ場区画整理事業が実施されてから50年近くが経過し、用排水施設等の老朽化が進んでいること、大型機械導入による作業効率の向上が求められ、そして農業の担い手を育成するため農地の集約化を進める必要があることから、大規模ほ場区画整備事業が新潟県の事業として三郷地区で進められています。事業名は「経営体育成基盤整備事業」として実施されており、事業の進捗状況は下記の表のとおりとなっています。

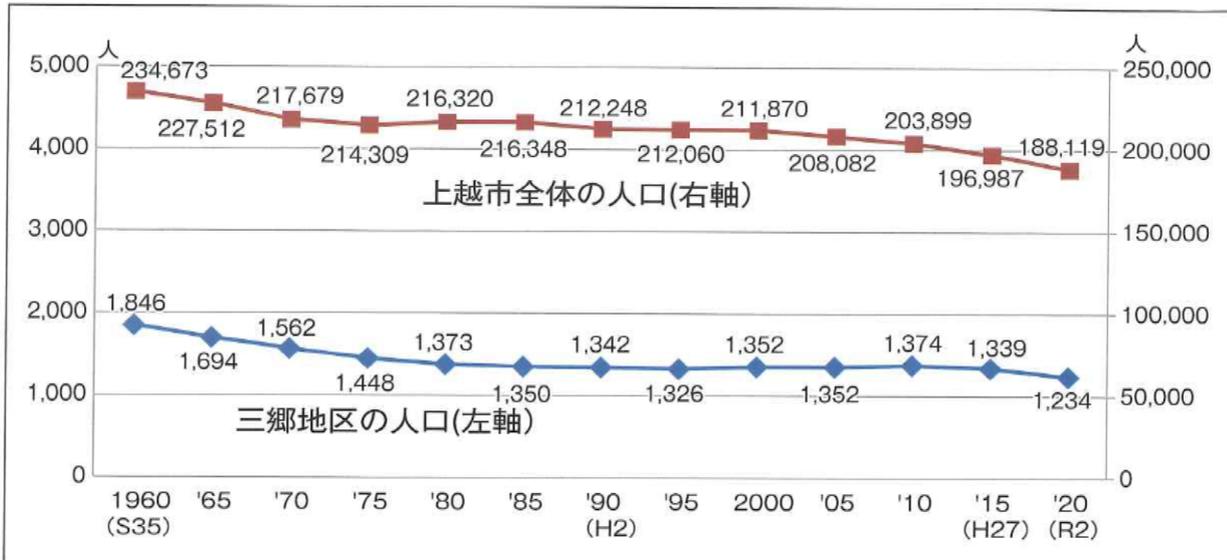
地区名	受益面(㌥)	工期	用水受益	R3.8月現在の進捗状況
津有南部第2	222.0	H11~H29	中江用水	事業完了:県道の北側
今池	40.2	H30~R5予定	中江用水	区画整理33.4㌥完了
三郷	195.7	R3~R11目標	中江用水	調査(R元~2)済
清里第1	231.0	R5~R13目標	上江用水	調査実施中

## 第7章 人口、世帯数

### 1 人口

#### (1) 総人口の推移（上越市との比較）（1960年～2015年）

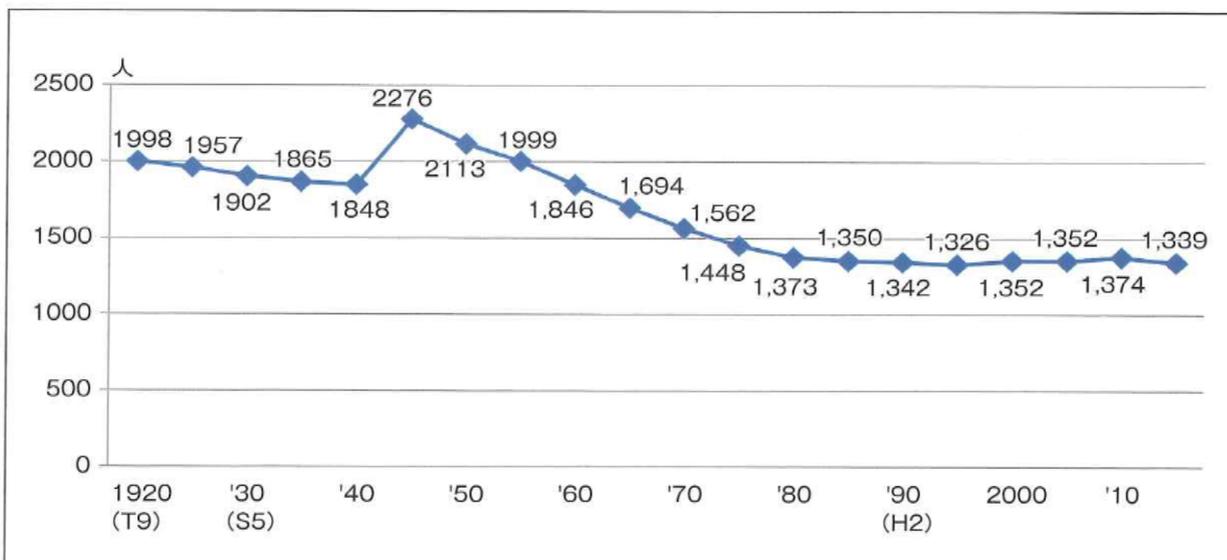
上越市は1990年（平成2年）から徐々に減少しています。三郷地区は1980年頃まで減少が続いていましたが、平成5年に桜町が新しくできたこともあり、ほぼ横ばいの状態です。なお、2020年のデータは速報値です。



引用：上越市創造行政研究所作成「人口・世帯に関するデータ」より

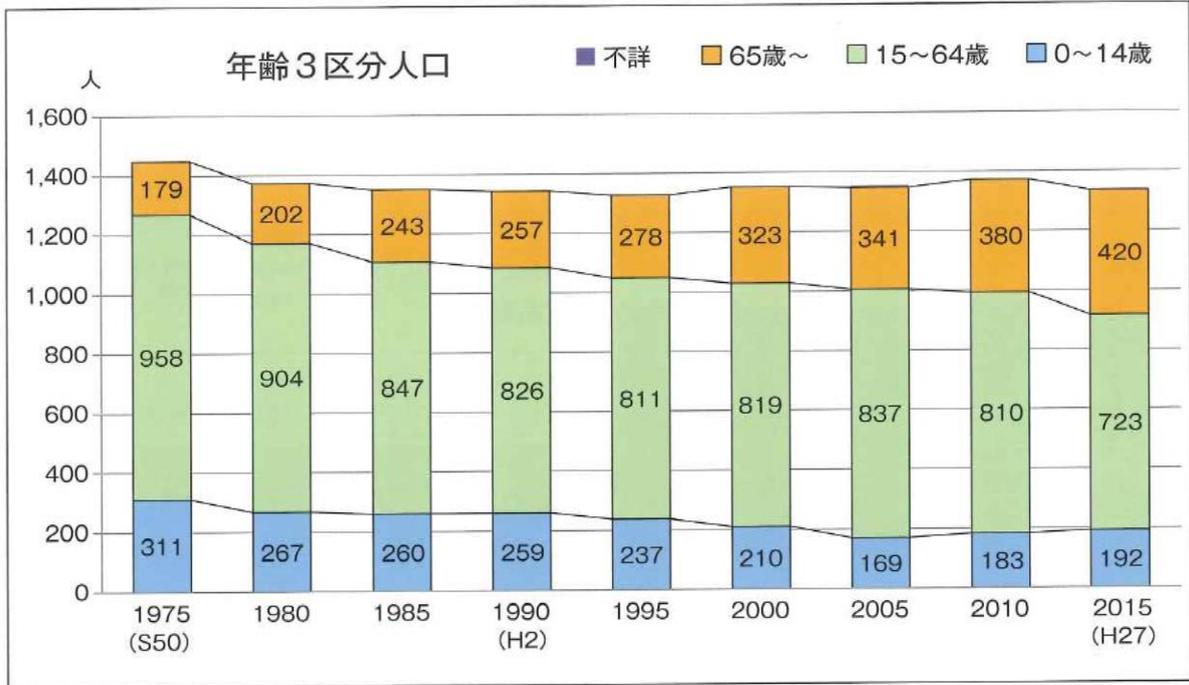
#### (2) 総人口の推移（1920年～2015年）

三郷村誌による1920年（大正2年）からの国勢調査結果によると、終戦直後は疎開や引き上げで一時的に増加したものの減少し続け、1980年（昭和55年）からはやや横ばい状態です。

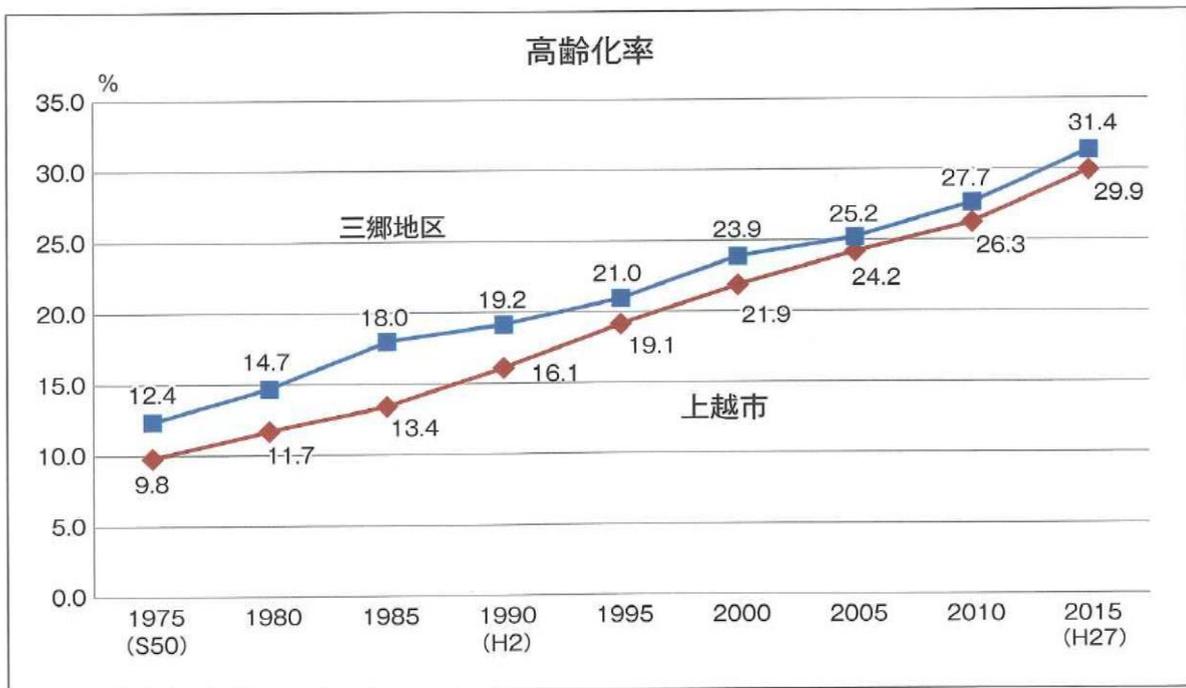


(3) 三郷地区の年齢3区分人口（1975年～2015年）

高齢者の数や高齢化率は増加を続け、高齢化率は上越市全体より若干高い。しかし、子どもの数は少子化の中にあっても近年増加していますが、2020年の保育園の三郷地区の3歳児から5歳児の在園人数合計人からすると今後減少傾向にあることがうかがえます。



引用：上越市創造行政研究所作成「人口・世帯に関するデータ」より

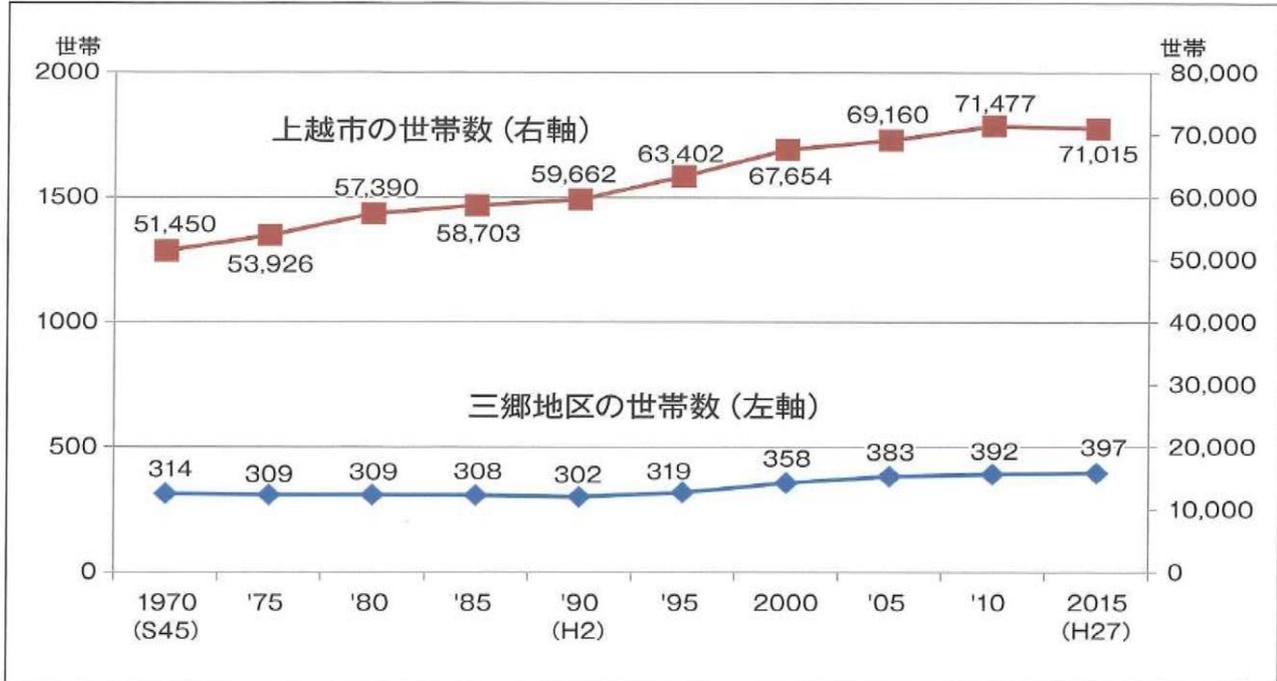


引用：上越市創造行政研究所作成「人口・世帯に関するデータ」より

## 2 世帯数

### (1) 総世帯数（上越市との比較）（1970年～2015年）

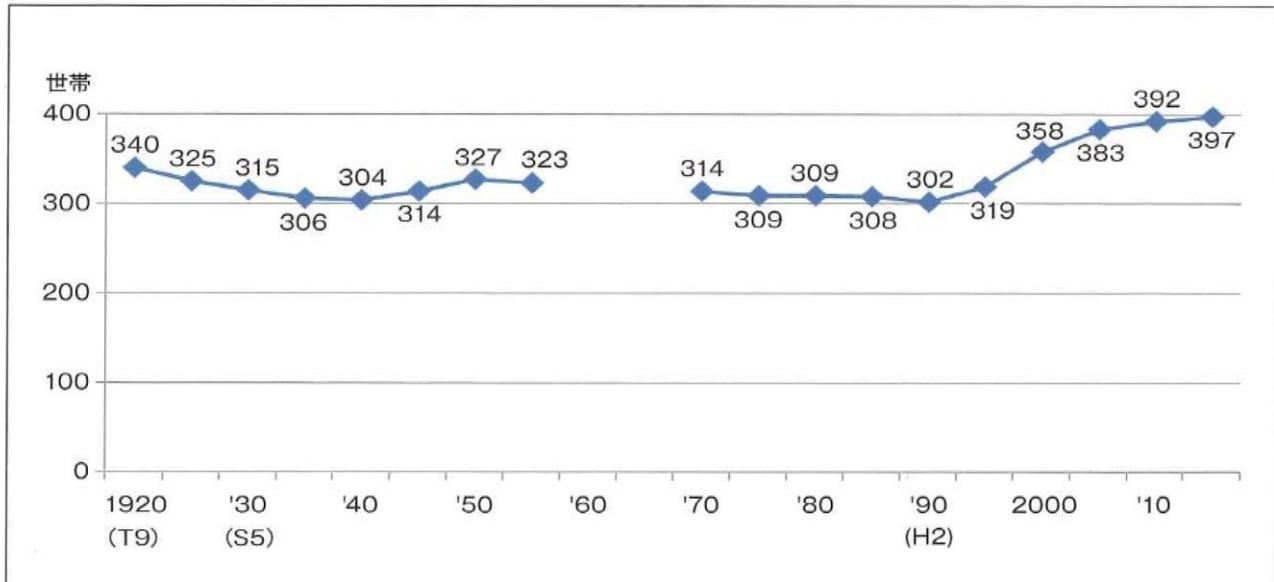
上越市は人口減でも核家族化や未婚化により世帯数は増加していますが、2015年（平成27年）に初めて減少に転じました。三郷地区はほぼ横ばいで移行していましたが、1995年以降は増加傾向にあります。



引用：上越市創造行政研究所作成「人口・世帯に関するデータ」より  
 (備考) 施設等の世帯（寮・病院・社会福祉施設など）を除く「一般世帯数」です。

### (2) 世帯数の推移（1920年～2015年）

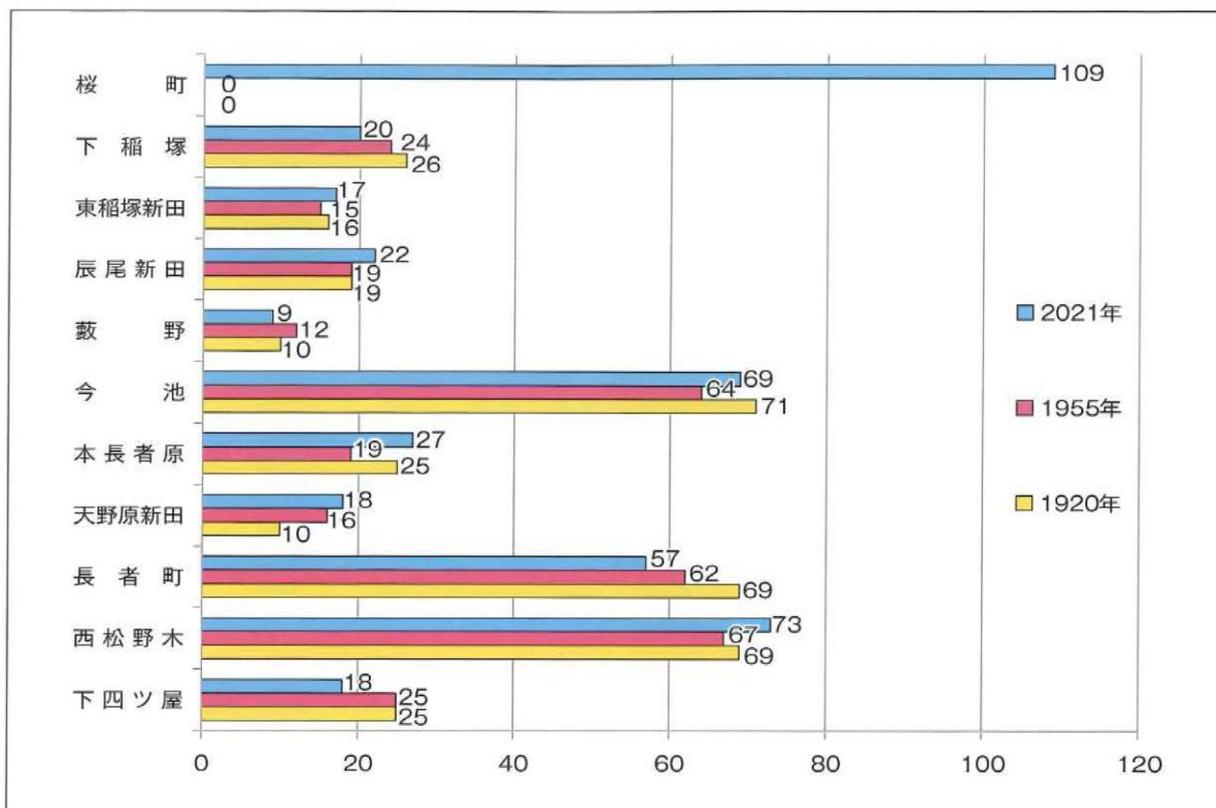
\*空欄はデータなし



1990年以降微増ではありますが、世帯数が増加しています。人口がほぼ横ばいであることから、1世帯当たりの人数が少なくなっていることがうかがえます。

### (3) 町内別世帯数

国勢調査による1920年（大正9年）、1955年（昭和30年）の世帯数と2021年（令和3年）の戸数を町内別に比較をしてみたところ、減少が多い中で、天野原新田、本長者原、今池、辰尾新田、東稲塚新田はほぼ横ばいです。また、1993年（平成5年）に発足した桜町の存在は大きいです。



\* 1920年、1955年は国勢調査

\* 2021年は上越市のホームページから2021年3月31日のデータを使用（藪野の特別養護老人ホーム入居者を除いた数字）

<参考資料> ・戸数の調査のため、世帯数と同数ではない  
 ・各町内会長の協力による調査

2021年（令和3年）1月1日現在

町内名	戸数	人数	町内名	戸数	人数
下四ツ屋	17	53	藪野	9	29
西松野木	61	200	辰尾新田	17	65
長者町	50	177	東稲塚新田	15	51
天野原新田	15	31	下稲塚	17	44
本長者原	24	79	桜町	109	—
今池	64	195	合計	398	—